



現在、AI（人工知能）の研究が高度に発達してきたお陰で、IoTとビッグデータと連携することにより、「人間の機械化」に基づく産業革命に匹敵する大革命が起こりつつあると喧伝されている。そうであれば、今回のAIによる産業革命は、「人間の知能の機械化」に基づくといえよう。

現在の多くの職業が、AIやAIを内蔵したロボット等にとって代わられると予想されている。最初の産業革命が始まったころ、機械打ち壊し運動（ラッダイト運動）がイギリスで起こった。失業を恐れた手工業者や労働者によってである。AIやロボットが知的職業から人の仕事を奪うという恐れは、今のままの仕事のやり方や内容にこだわれば、その通りだろう。しかし、新しい仕事が生まれる仕事の何倍にもなっている。現在のコンピュータ化を考えれば明らかである。

**向殿 政男**

AIと人間との  
付き合い方を考える

AIに基づく「人間の知能の機械化」は、単なる無人化や省力化であつてならない。知的作業において、人間の知的能力を拡大させるための、人間を楽にさせるための、人間を楽しくさせるためのツールの発展でなければならない。あくまでも人間を中心に考えて、人間が主人でAIをツールとして使う、これが、AIと人間との付き合い方の基本である。

一方、新しい技術には必ず、新しいリスクが伴う。減多やたらに開発、導入し、産業の発展につながればよいという発想はそろそろやめにしなければならぬ。ここまで科学技術が進歩すると、それに伴うリスクによって、人間の幸せが脅かされたり、人類の存続を危うくさせたりする危険性が出てくる。リスクを前もって予測し、人間の幸福につながる方向に制御し、つながらない方向の発展は阻止すべきである。

（明治大学名誉教授、顧問）

広く詳しく正確な情報・評論

# エネルギー

Energy Review

# レビュー

2016. **9**

## 特集 進化する放射線医療

徹底分析 最近の原子力訴訟を考える

ルポ フリーダムトレイル (その3) 米マサチューセッツ州

